

計画の評価と進捗管理

それぞれの基本目標に対して、達成状況を評価するための評価指標を設定します。

目標1. 多様な手段による生活交通・観光交通の確保

評価指標		現状値	目標値 (令和10年度)
指標1-1 タクシー利用補助制度 利用状況	①高齢者通院時タクシー等 利用助成事業利用者数	363人/年 (令和4年度)	↑ 650人/年以上
	②高齢者外出支援事業 申請者数	200人/年※ (令和5年度)	↑ 255人/年以上
指標1-2 福祉タクシー利用券利用枚数		959枚/年 (令和4年度)	→ 960枚/年以上

※令和5年5月～8月の実績値より年間申請者数を推定

目標2. 公共交通の利便性向上・効率性向上

評価指標		現状値	目標値 (令和10年度)
指標2-1 デマンド交通 「キラ輪(りん)号」 の満足度	①予約方法	82% (令和4年度)	↑ 85%以上
	②配車待ち時間	84% (令和4年度)	↑ 90%以上
指標2-2 デマンド交通「キラ輪(りん)号」予約キャンセル率		9.6% (令和5年4～6月)	↓ 0%
指標2-3 デマンド交通「キラ輪(りん)号」収支率		10.7% (令和4年度)	↑ 15.0%

目標3. 公共交通利用の増加

評価指標		現状値	目標値 (令和10年度)
指標3-1 デマンド交通 「キラ輪(りん)号」 利用状況	①デマンド交通「キラ輪(りん)号」 登録者数(65歳以上)	2,553人 (令和4年度)	↑ 3,300人
	②デマンド交通「キラ輪(りん)号」 登録者数(65歳未満)	732人 (令和4年度)	↑ 960人
	③デマンド交通「キラ輪(りん)号」 利用者数(65歳以上)	8,139人 (令和4年度)	↑ 10,400人
	④デマンド交通「キラ輪(りん)号」 利用者数(65歳未満)	1,256人 (令和4年度)	↑ 1,600人
指標3-2 モビリティ・マネジメントの実施回数		新規	↑ 1回/年以上

本計画における進捗管理は、PDCA サイクルに基づき実施します。計画期間においては毎年度、達成状況の評価を行います。進捗状況や指標の達成状況、また社会情勢の変化を踏まえて、計画期間中は適宜見直しを行うものとしします。



図6 PDCAサイクル

野木町地域公共交通計画

【概要版】

策定の背景

野木町においては、人口減少や少子高齢化が進展している現状や、平成27年度に国連サミットにて採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の観点から、年代や性別等の個人の属性に関わらず、幅広い方に利用していただける公共交通を実現すべきであると考えます。そのためには、まちづくりと一体となった利便性の高い持続可能な公共交通体系を再構築する必要があります。

本計画は、それを着実に推進するために、「地域公共交通の活性化および再生に関する法律」に基づいて、本町の公共交通政策に関する基本方針や施策展開を示すものです。

計画期間

令和6年度から令和10年度までの5年間とします。

対象区域

野木町全域とします。

地域公共交通の現況と課題

表1 野木町内における公共交通の種類

種類	事業者	内容等
鉄道	JR東日本	JR宇都宮線(野木駅)
デマンド交通 「キラ輪(りん)号」	野木町(都市整備課) 野木町社会福祉協議会 小山合同タクシー 野木タクシー	事業許可区分:4条乗合 運行形態:区域運行 運行範囲:野木町全域、光南病院(小山市)、 友愛記念病院(古河市)
タクシー	2事業所	—
福祉タクシー	6事業所	—
福祉有償運送	2事業所	2事業所が栃木県及び野木町の同意のもと、事業を実施
レンタサイクル	野木町(産業振興課)	野木駅、野木町役場、野木町交流センター「野木ホフマン館」、 野木町ボランティア支援センター「きらり館」にポート設置

野木町の現況

【地勢・人口等】

- 人口減少・人口の低密度化
- 周辺市町への通勤・通学人口の流動が多い
- 生活利便施設は駅周辺に分布しているが、観光施設が駅から離れて分布

【公共交通】

- 駅カバー圏域外に約3割が居住
- 鉄道利用者の減少
- デマンド交通「キラ輪(りん)号」の利用者は65歳以上が主で、駅や医療施設への移動需要が高い

【町民アンケート】

- 自動車への依存がみられる
- 午前中に移動が集中
- 鉄道は日常的な利用がなされていない
- デマンド交通「キラ輪(りん)号」の利用者が少ない

【デマンド交通「キラ輪(りん)号」利用アンケート】

- 利用者は運転免許を所有していない人が多数
- 運行区域の制限や自家用車の便利さから利用していない
- 利用者・未利用者共に約4割の人が予約アプリを希望

【交通事業者ヒアリング】

- 混雑時のデマンド予約が困難
- 混雑時や遠方利用者が多い場合に配車の調整が困難
- デマンド交通「キラ輪(りん)号」の認識不足

【デマンド交通「キラ輪(りん)号」キャンセル発生状況】

- 利用者の約1割が希望便の予約ができず、特に午前中の便に集中

課題

■ 駅や駅周辺の拠点地域への
移動手段の確保

■ 公共交通の利用促進に向けた
町民の意識啓発

■ 誰でも使いやすいデマンド
交通システムの構築

基本理念 多様なニーズに対応する公共交通

基本方針1

町内の移動手段の維持と活用

デマンド交通「キラ輪(りん)号」のほか、レンタサイクルやタクシーなどの維持・活用を図り、町内の拠点地域と居住地および観光施設等を結ぶ交通を確保します。

目標1
多様な手段による生活交通・観光交通の確保

基本方針2

公共交通の運用の見直し

利用者の多様なニーズに応えられるよう、デマンド交通システムの導入を含めた公共交通の見直しにより、気軽に利用できる移動手段を目指すとともに、事業者負担の軽減を図ります。

目標2
公共交通の利便性向上・効率性向上

基本方針3

町民の公共交通利用意識の醸成

公共交通に関する情報発信や啓発活動を通じて、町民が公共交通を自ら守る意識を育て、利用の促進と交通手段の維持につなげます。

目標3
公共交通利用の増加

- 交通結節点（鉄道駅）
- 町内および町周辺の主要施設（拠点施設）
- 地域間交通ネットワーク（鉄道）
- 地域内交通ネットワーク
- 地域外との連携

- 施策1-1 タクシーの維持
- 施策1-2 高齢者・福祉輸送の維持
- 施策2-1 路線バスの調査・研究
- 施策2-2 AI配車システムの導入（デマンド交通「キラ輪(りん)号」）
- 施策2-3 予約方法やチケット販売方法の見直し（デマンド交通「キラ輪(りん)号」）
- 施策3-1 デマンド交通「キラ輪(りん)号」に関する情報発信と利用意識の啓発
- 施策3-2 デマンド交通「キラ輪(りん)号」利用のきっかけの提供

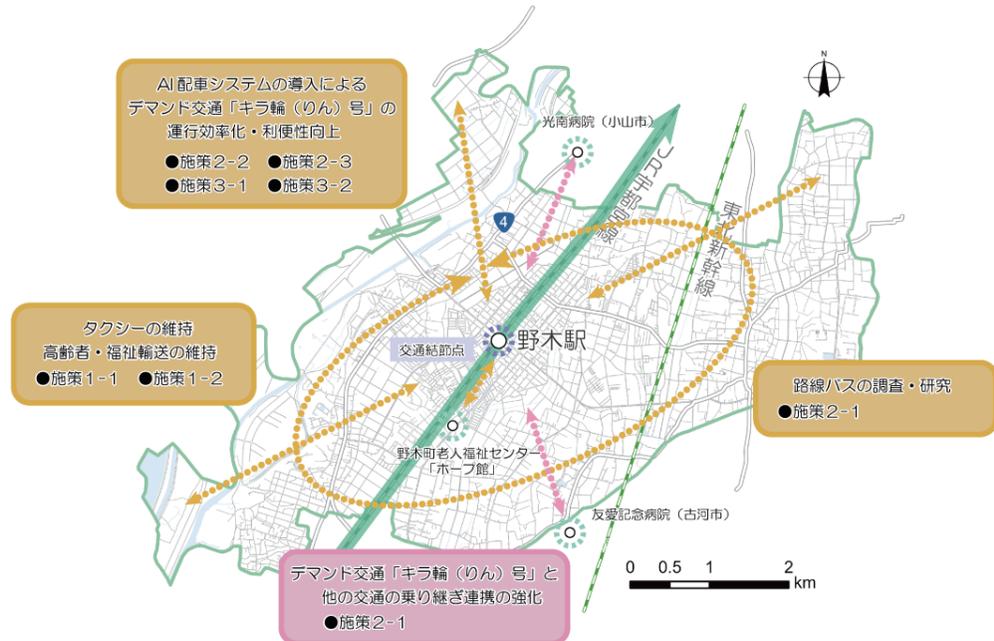


図1 施策と交通ネットワークの関係

それぞれの施策の実施に関係する主体を以下のマークで表しています。

- 町：野木町
- 福：福祉タクシー
- タ：タクシー事業者
- バ：バス事業者
- 交：交通事業者
- 近：近隣自治体

目標1 1. 多様な手段による生活交通・観光交通の確保

施策1-1 タクシーの維持 町 タ

- 高齢者のタクシー利用に対して、支援を継続します。
- ユニバーサルデザインタクシー（UDタクシー）運行事業者への助成を引き続き実施します。

施策1-2 高齢者・福祉輸送の維持 町 福

- 「身体障害者手帳・療育手帳・精神保健福祉手帳」の交付や屋外移動に著しい制限が認められる障がい者の移動支援、車いす高齢者の社会福祉施設や医療機関への送迎等を行っていきます。
- 自家用有償旅客運送等新たな取組も含めて、引き続き移動制限者に対する移動手段の支援を検討します。

目標2 2. 公共交通の利便性向上・効率性向上

施策2-1 路線バスの調査・研究 町 バ 近

- デマンド交通「キラ輪(りん)号」と他の公共交通の乗り継ぎ連携を強化します。
- 路線バスおよび自動運転バスについて、調査・研究を行います。

施策2-2 AI配車システムの導入（デマンド交通「キラ輪(りん)号」） 町 交

- デマンド交通「キラ輪(りん)号」の予約をスマートフォンやPC等で行えるAIデマンド交通システムを導入します。
- 導入とともに現在の30分ごとの定時での運行ではなく、自由な時間での予約が可能となります。

施策2-3 予約方法やチケット販売方法の見直し（デマンド交通「キラ輪(りん)号」） 町 交

- デマンド交通「キラ輪(りん)号」の予約方法とスマートフォンやPC等で予約可能なアプリケーションの導入を検討します。
- デマンド交通「キラ輪(りん)号」の利用券を購入できる場所について、利用ニーズにあった販売場所を検討します。



図2 システムイメージ
国土交通省「日本版MaaSの推進HP」

目標3 3. 公共交通利用の増加

施策3-1 デマンド交通「キラ輪(りん)号」に関する情報発信と利用意識の啓発 町 交

- 広報資料として引き続きチラシや動画を作成し、町内の生活拠点となる公共施設に配布・設置を行います。
- 免許返納を行った方には、無料券2冊（無料券20回分）を配布しており、それと併せて利用方法の案内を行います。
- 町のホームページやSNSを活用した情報発信を行います。

【事例】野木町デマンド交通「キラ輪(りん)号」の広報活動



図3 現在の広報チラシ



図4 デマンド交通「キラ輪(りん)号」車内貼り紙



図5 野木町ホームページ・SNS

施策3-2 デマンド交通「キラ輪(りん)号」利用のきっかけの提供 町 交

- 小・中学生や高齢者向けに体験・試乗する機会を設け、新規登録者および利用者数の増加を目指します。
- スマートフォン・タブレットを活用した予約アプリの利用方法を教える乗り方教室や体験イベント等を実施します。